



2026年12月期 中間決算説明資料

2026年9月10日
市光工業株式会社

VISION IN MOTION



目次

- ① 2026年12月期 中間決算概要(2026年1月～6月)
- ② 2026年12月期業績見通し(2026年1月～12月)
- ③ 持続的な企業価値の向上に向けて

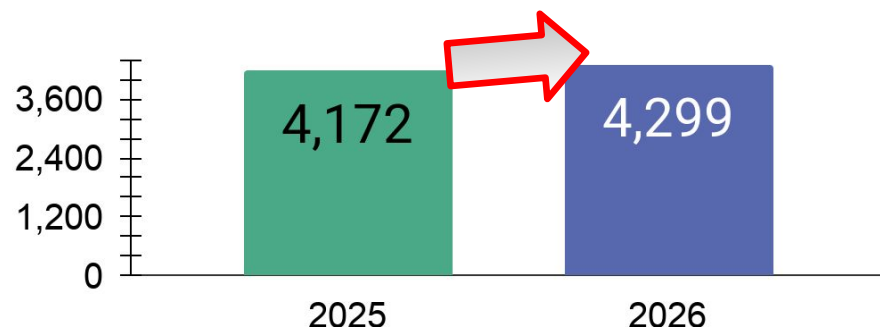
01 2026年12月期 中間決算概要 (2026年1月～6月)

売上高とマーケット生産台数(前年同期比較)

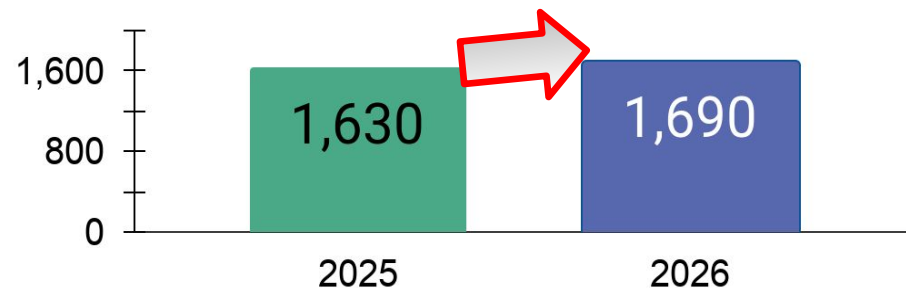
2026年上期マーケット生産台数 *

単位:千台

Japan 前年比 3.0%



ASEAN 前年比 3.7%



*出典 マークラインズ

2026年度上期売上高対マーケット生産台数

2026 vs 2025	当社 売上高 (金型売上、為替 影響除く)	マーケット 生産台数 増減率	売上高対 マーケット生産台数
Total	2.5%	3.2%	▲0.7ポイント
JAPAN	5.9%	3.0%	2.9ポイント
ASEAN	▲5.6%	3.7%	▲9.3ポイント

- ・市光グループ: 日本+アセアン
- ・日本: 市光単体
- ・アセアン: マレーシア, インドネシア, タイ

日本の好調な売上高により、
地政学的リスクを受けて ASEANから中東への輸出が
一時的に減少した影響を十分に補完

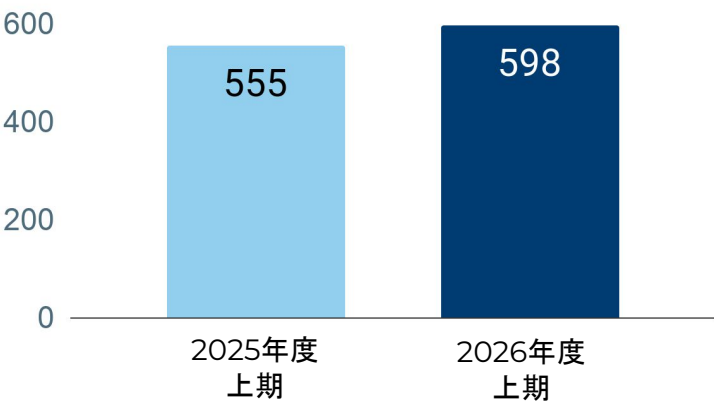
2026年12月期 中間連結業績概要(前年同期比較)

- ◆ 売上高: 日本での新規PJの立ち上げ、製品ミックス、新モデルの量産開始に伴う金型売上の増加 により増収
- ◆ 営業利益: 需要の増加、金型売上の増加、生産性の向上 により、上期後半における円安や原材料・エネルギーコストの上昇による影響を補完して増益

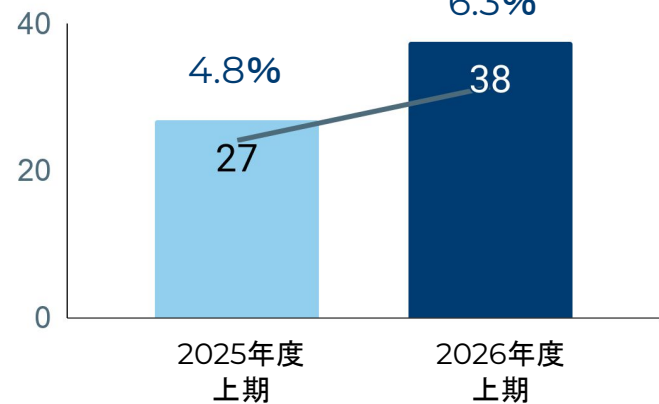
単位: 億円 / 四捨五入

	FY2025実績 (2025年1～6月)	FY2026実績 (2026年1～6月)	増減額 (前年対比)		増減率
売上高	555	598	①	42	7.6%
営業利益	27	38	②	11	40.1%
営業利益率	4.8%	6.3%	②/①	25.4%	1.5ポイント
経常利益	37	49		12	33.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	26	38		12	44.7%

連結売上高推移



連結営業利益推移



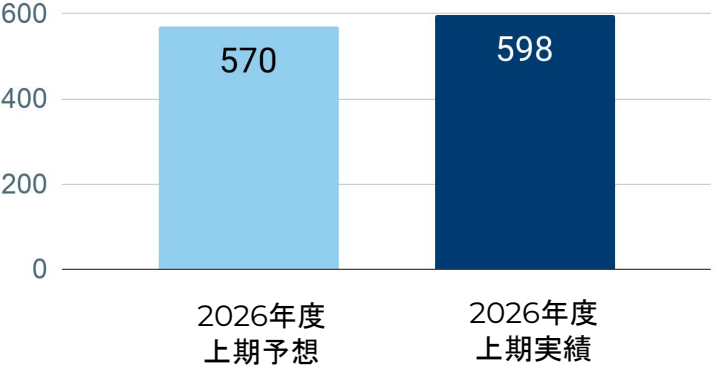
2026年12月期 中間連結業績概要(対予想比較)

- ◆ 売上高: 製品ミックス、金型売上の増加、円安の進展による ASEAN地域の為替換算影響により、予想を超過
- ◆ 利益: 増収効果、生産性向上、顧客との交渉などを通じた一過性要因 が中東危機の影響を相殺し収益性が向上

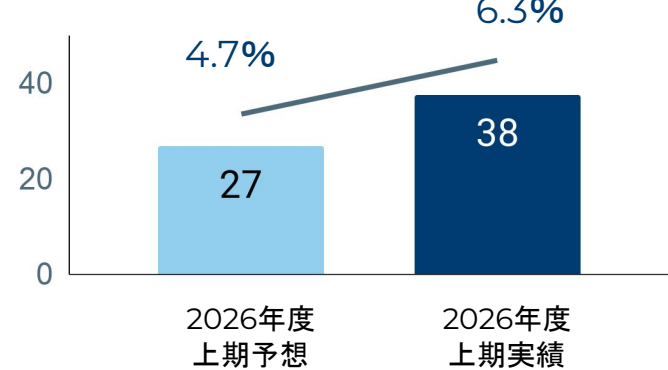
単位: 億円/四捨五入

	FY2026予想 (2026年1~6月) * 2026.2.13.東証発表	FY2026実績 (2026年1~6月)	増減額 (対予想比)		増減率
売上高	570	598	①	28	4.9%
営業利益	27	38	②	11	40.1%
営業利益率	4.7%	6.3%	②/①	38.8%	1.6ポイント
経常利益	32	49		17	52.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	24	38		14	56.6%

連結売上高



連結営業利益



2026年12月期中間 地域別業績(前年同期比較)

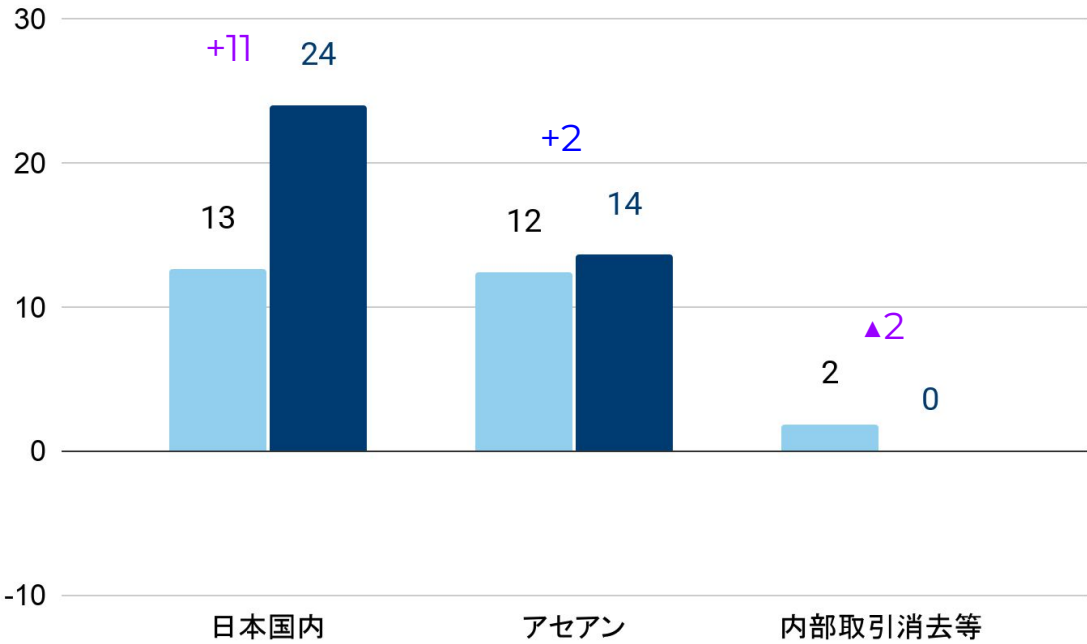
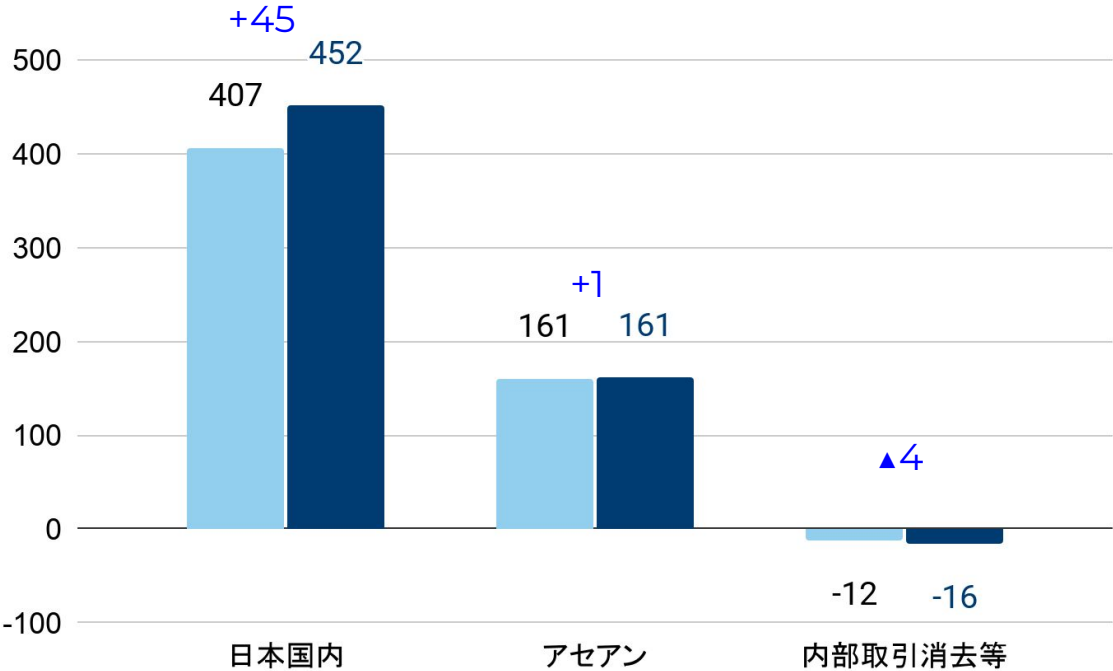
- ◆ 国内: 生産性向上と増収(新規PJの立ち上げ、製品ミックス、金型売上増加)により、上期後半における円安、原材料・エネルギーコストの増加を補完して増益
- ◆ アセアン: 中東へ輸出を行う顧客からの需要の鈍化やインフレが進行するなか、顧客との交渉などを通じた一過性要因により補完

2025年12月期 中間 2026年12月期 中間

単位: 億円 / 四捨五入

売上高 555⇒598(前期比 +42)

営業利益 27⇒38(前期比 +11)
営業利益率 4.8%⇒6.3%(前期比 +1.5ポイント)

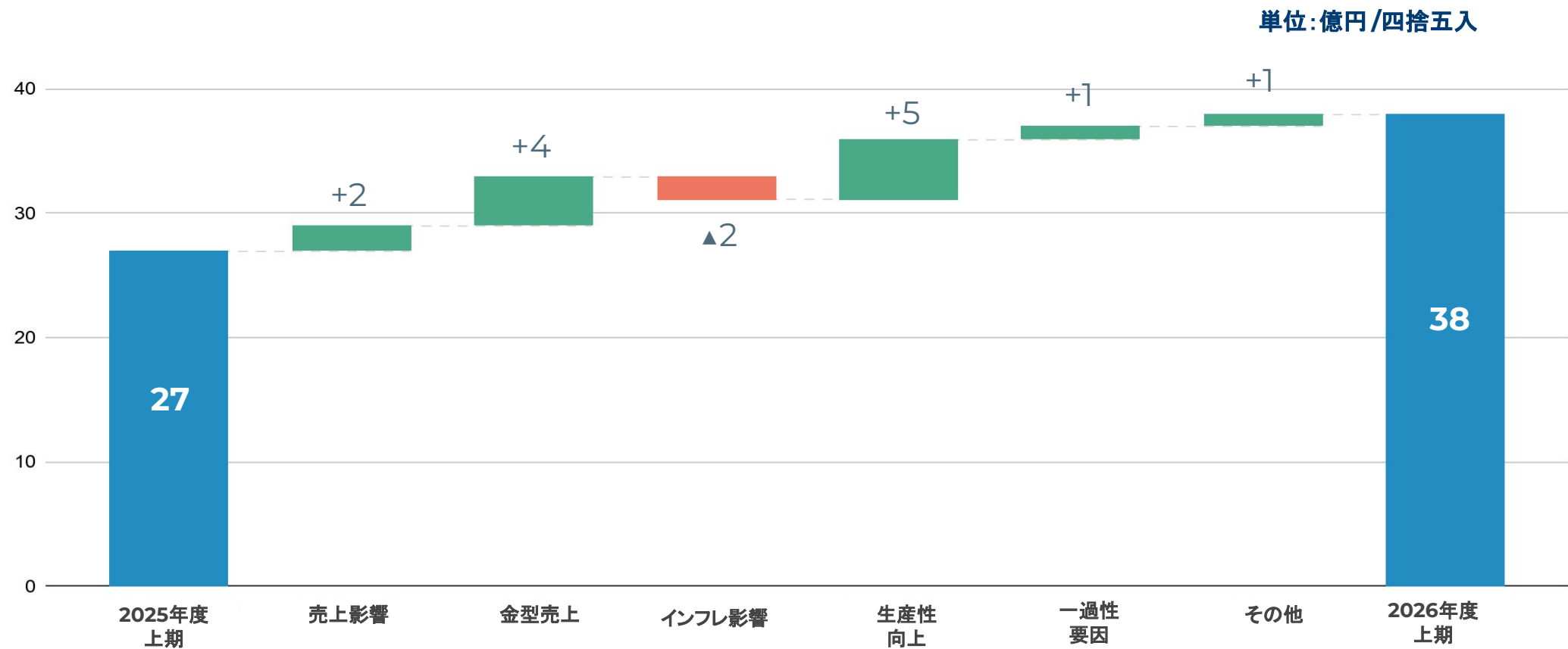


日本国内: 伊勢原・藤岡・本社・九州市光(営業利益のみ)、アセアン: マレーシア・インドネシア・タイ

2026年12月期 中間業績のポイント(対前年同期比較)

【営業利益】

- ◆ 生産性向上、一過性要因に加え、増収効果、金型売上増加が相まって、原材料、エネルギーコスト、人件費のインフレ影響分を補完してさらに増益

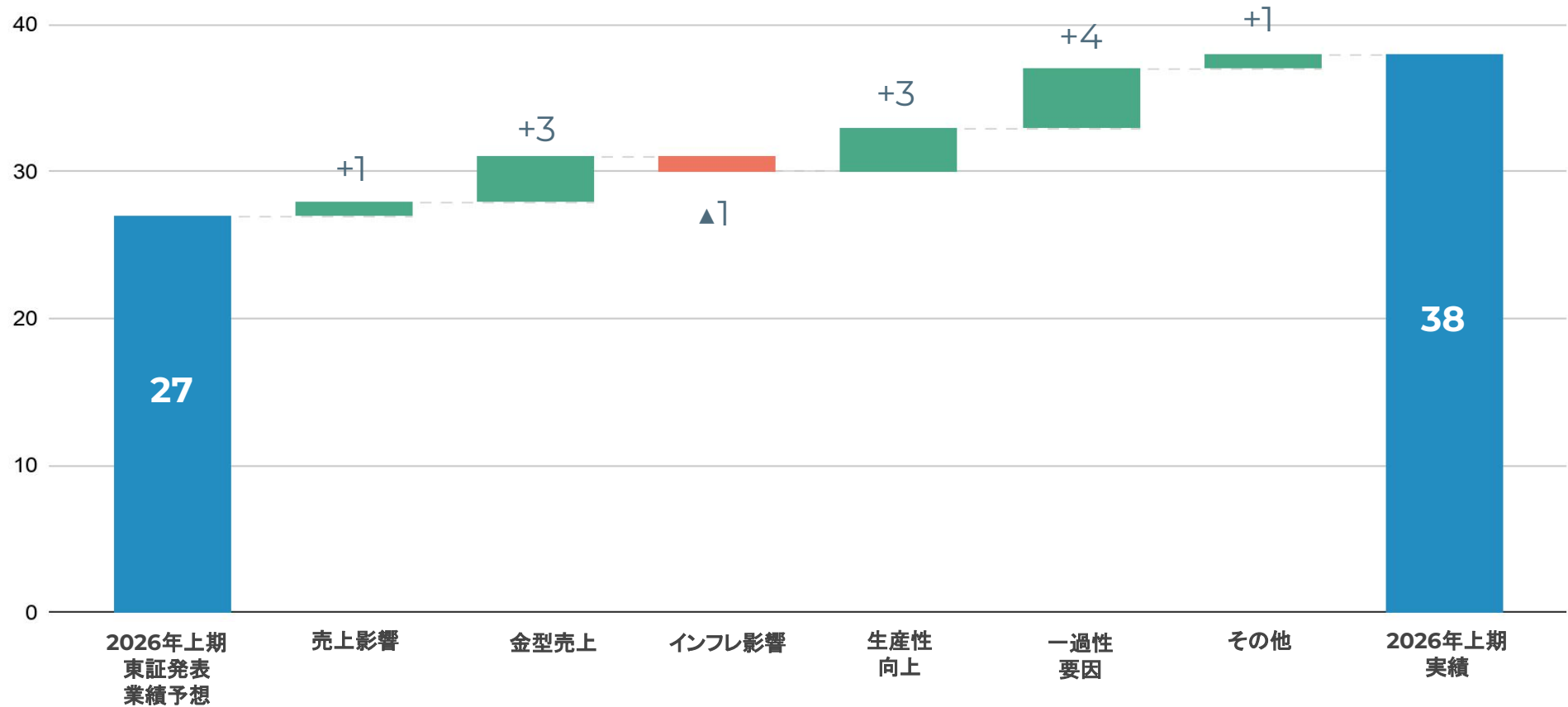


2026年12月期 中間業績のポイント(対予想比較)

【営業利益】

- ◆ 生産性向上、一過性要因に加えて、増収効果、金型売上が相まって、第二四半期の原材料費やエネルギーコストによるインフレ再燃の影響を補完してさらに増益

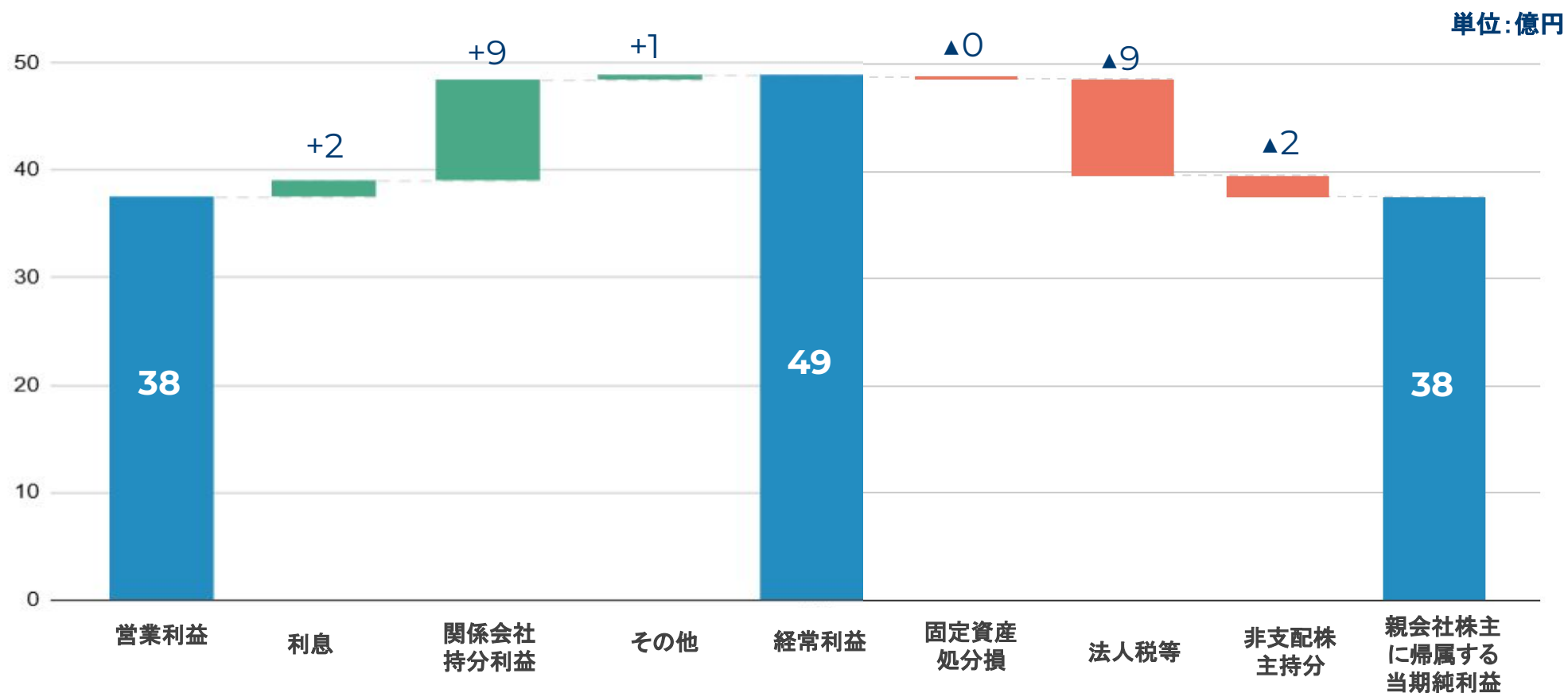
単位: 億円/四捨五入



2026年12月期 中間業績のポイント

【営業利益～経常利益～親会社株主に帰属する当期純利益】

- ◆ ヴァレオ中国との在中国ライティング合併会社からの **持分利益が好影響**



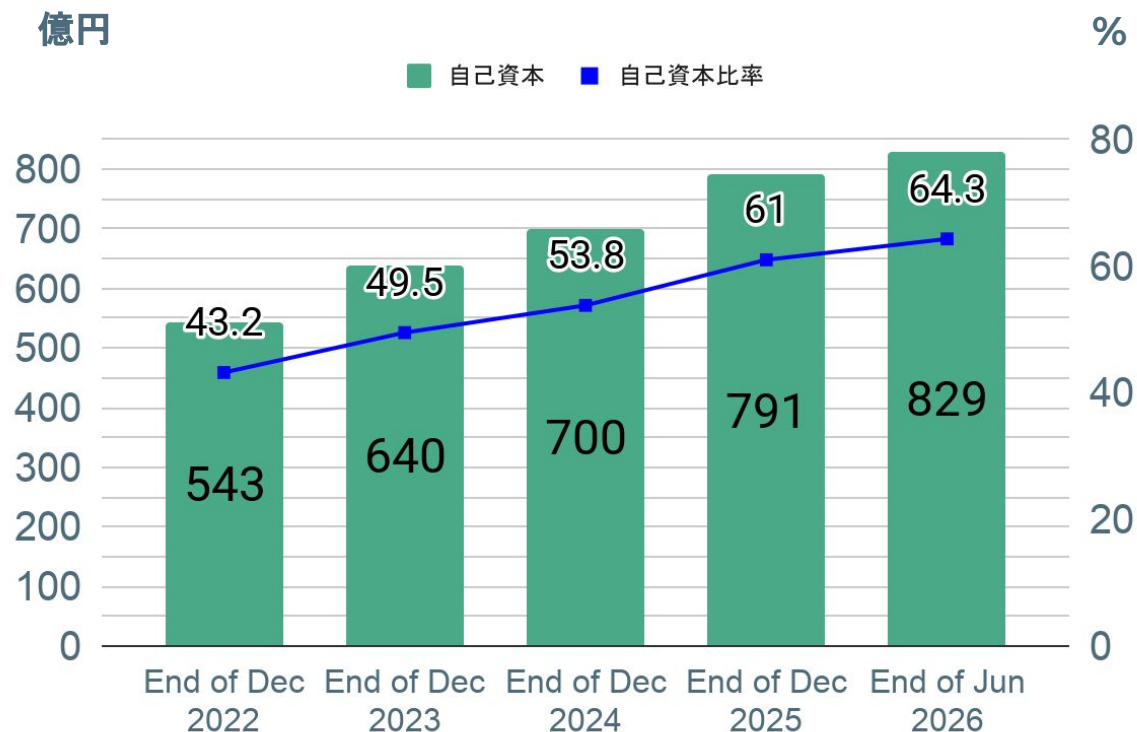
2026年12月期 中間 連結貸借対照表(前年度期末比)

単位: 億円 / 四捨五入

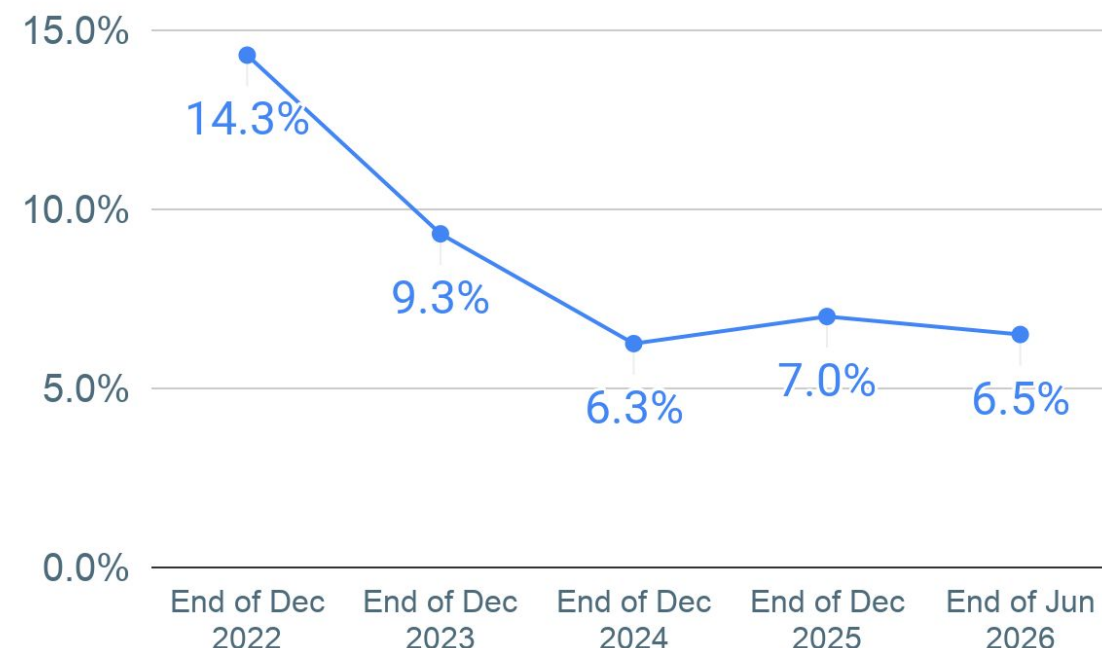
	2025/12	2026/6	増減
現金及び預金	124	136	12
売上債権	127	149	22
棚卸資産	86	74	▲11
短期貸付金	332	303	▲29
有形固定資産・無形固定資産	378	360	▲18
その他	250	268	18
資産の部	1,296	1,290	▲6
買掛債務	263	222	▲41
有利子負債	55	54	▲1
その他	177	174	▲3
負債の部	495	449	▲46
株主資本	713	744	31
その他包括利益累計額	79	86	7
非支配株主持分	10	11	1
純資産の部	801	841	39

自己資本比率と D/E レシオ

自己資本比率は 60%を超えてさらに増加



D/E レシオはリース債務の減少と自己資本の増加により減少



02 2026年12月期業績見通し (2026年1月～12月)

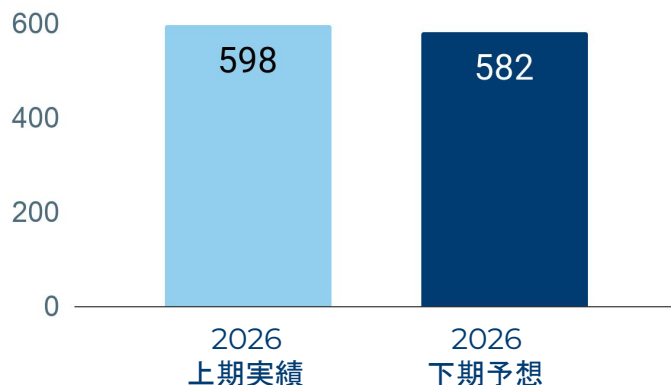
2026年12月期 連結 上期実績 vs 下期予想

- ◆ 2026年の通期業績見通しを維持
- ◆ 中東の地政学的リスクによる 需要の不透明感、地震による操業への影響、原材料・エネルギーコストの高騰、円安といった要因により、事業環境はきわめて不安定な状況だが、柔軟な事業対応力により上期の業績は堅調に推移

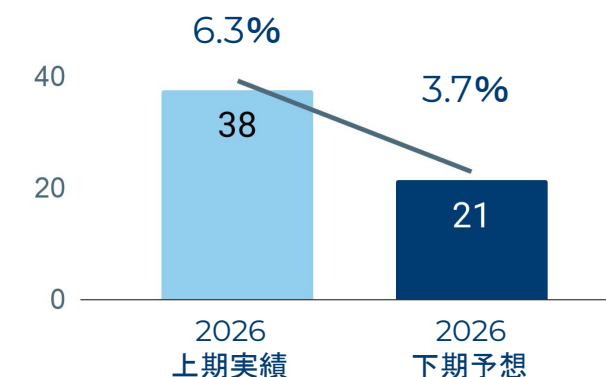
単位: 億円/四捨五入

	FY 2026上期実績 (2026年1～6月)	FY 2026下期予想 (2026年7～12月)	増減額 (上期対比)		増減率	FY 2026東証発表 (2026年1～12月) * 2026.2.13.東証発表
売上高	598	582	①	▲15.4	▲2.6%	1,180
営業利益	38	21	②	▲16.2	▲43.0%	59
営業利益率	6.3%	3.7%	②/①	104.8%	▲2.6ポイント	5.0%
経常利益	49	17		▲31.9	▲65.1%	66
親会社株主に帰属する当期純利益	38	12		▲25.2	▲67.0%	50

連結売上高推移



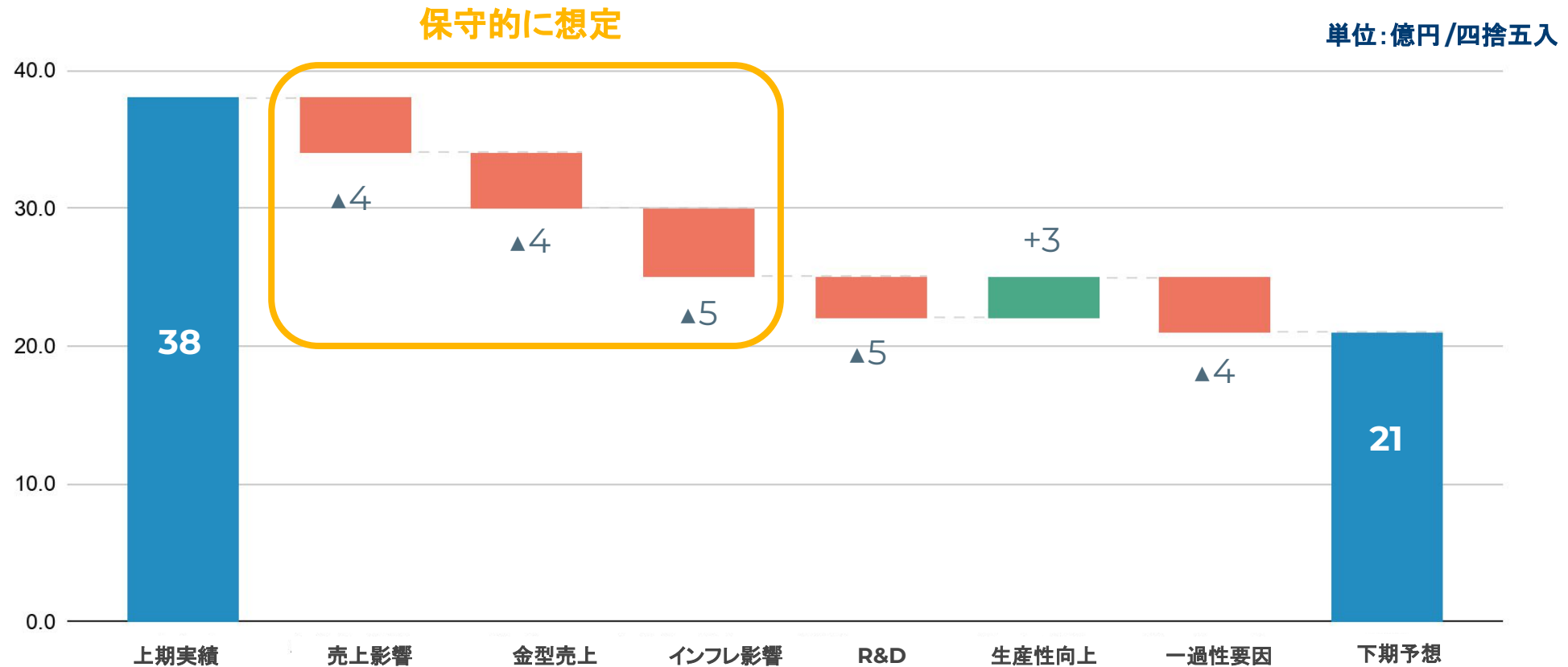
連結営業利益推移



2026年12月期 上期実績 vs 下期予想

【営業利益】

- ◆ 売上高(地政学的リスク、地震など)、インフレ(原材料、エネルギー、人件費)影響は 保守的に想定。
急激なコスト上昇分の価格転嫁への期ずれによる影響を懸念
- ◆ 生産性向上、品質関連コストの削減を継続し、下期予想を上回る業績を目指す



03 持続的な企業価値の向上に向けて

2026年上期:経営環境分析

市光が置かれた外部環境は、以前よりもはるかに不確実:



しかし、市光が **発揮した強靱な対応力** により、開示済みの目標達成に向けて着実に前進:

収益性の高い成長の回復

- 新規顧客 & 新規プロジェクト
- 新テクノロジー
- 新テリトリー

競争力の強化

- オートメーション
- AI/デジタル化
- 垂直統合 (SMT)

株主の皆さまへの貢献

- 柔軟な合併事業の展開による自己資本の充実
- 安定的かつ持続的な累進配当方針
- 優れたESG(環境・社会・ガバナンス)実績

収益性を伴う成長の回復 :新テクノロジー

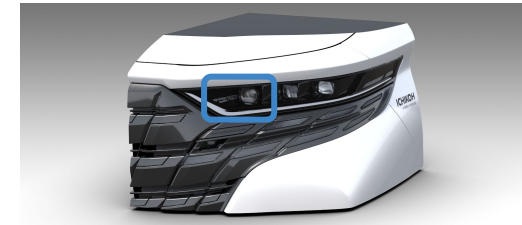
市光はテクノロジーリーダーとしての地位を確立

市光は「パッシブ・ライティング」から「インテリジェント・ライティング」へ

- HDライティングは2027年下半期に搭載予定
年間売上高目標: 60億円(2031年)
- 路面描画プロジェクション
年間売上高目標: 8億円(2031年)
- 市光とヴァレオの共同開発によるLDMを用いた新ヘッドランプは2026年度下期より段階的に搭載開始。
市光はシステムプロバイダーとしての地位を確立
年間売上高目標: 40億円(2031年)

【更なるイノベーション】

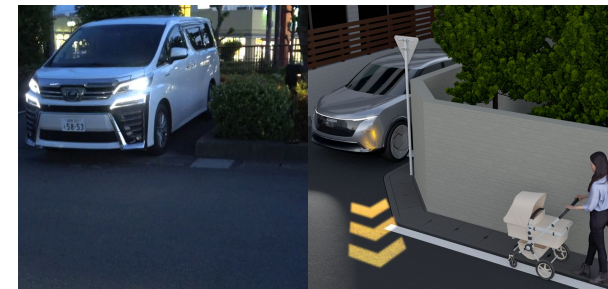
- センサー、カメラ、レーダー、およびコミュニケーションライティングの統合により、さらなる革新が到来
- 新テクノロジー製品 :Just in Light



HD Lighting



HD Lighting



路面描画プロジェクション

収益性を伴う成長の回復 - 新テクノロジー

インテリジェント・ライティング - “JUST IN LIGHT”

AIが走行環境に応じて最適な照度調整を行う次世代ヘッドランプの制御技術。

安全性と快適性を維持しながら、大幅なエネルギー消費抑制を通じてCO2排出削減とEVの航続距離延長を実現し、環境負荷低減と製品価値の向上を同時に追求した開発製品。

【目標】

消費電力を23%削減 *

年間売上高の見込は試算中

ユースケース: 街灯が多く明るい市街地の走行

70%

ユースケース: 街灯が少ない郊外の道路 (通常のロービーム)

100%

* GTB検討中の法規改正案に基づき、ロービームとDRLの平均削減効果で算出

収益性のある成長への回復 - 新テリトリー #1 & 新テリトリー #2

テリトリー #1 - インド



2025年8月
合併契約の締結



ICHIKOH
a Valeo company



2026年下期予定
事業計画の策定



2028年～

- ・合併会社の売上高目標: 100億円
当社持分利益として連結決算に貢献
- ・2028年以降の2桁成長を支えるため、
第2工場の建設に向けた検討を開始



2026年9月予定
ヴァレオ・インドアの
ライティング事業取得に向けた
事業譲渡契約の締結



2026年12月予定
合併会社の設立
事業開始日

テリトリー #2 - 地域を特定

2027年～
2027年に戦略が策定される予定

競争力の強化 - 3つのエンジンを順次導入



オートメーション

生産およびサプライチェーンの
プロセスの自動化のみならず、
事務作業においても



AI / デジタル化

AIによる
デザインと製造プロセスの変革



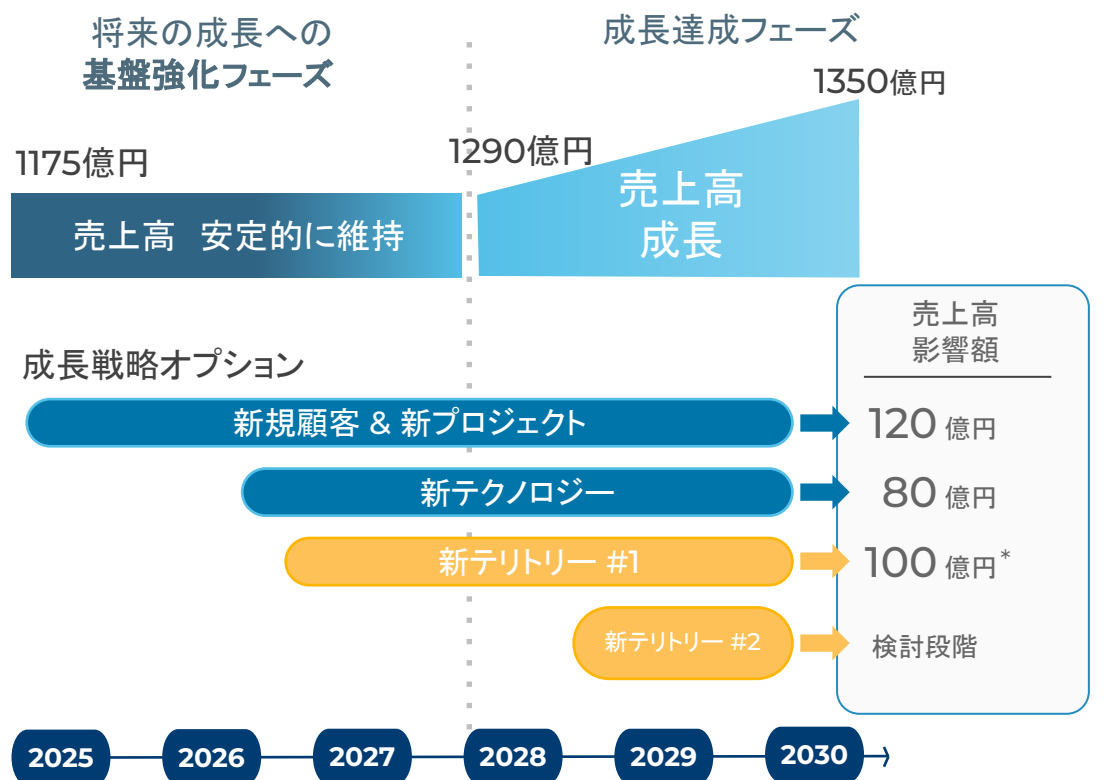
垂直統合

主要な電子部品およびドライバの
自社生産による付加価値の向上

付加価値の向上に向けて **AUTOMATION、AI、垂直統合**

成長戦略 - トランスフォーメーション計画

成長の回復に向けて...



*2028年の売上目標1,290億円には含まず

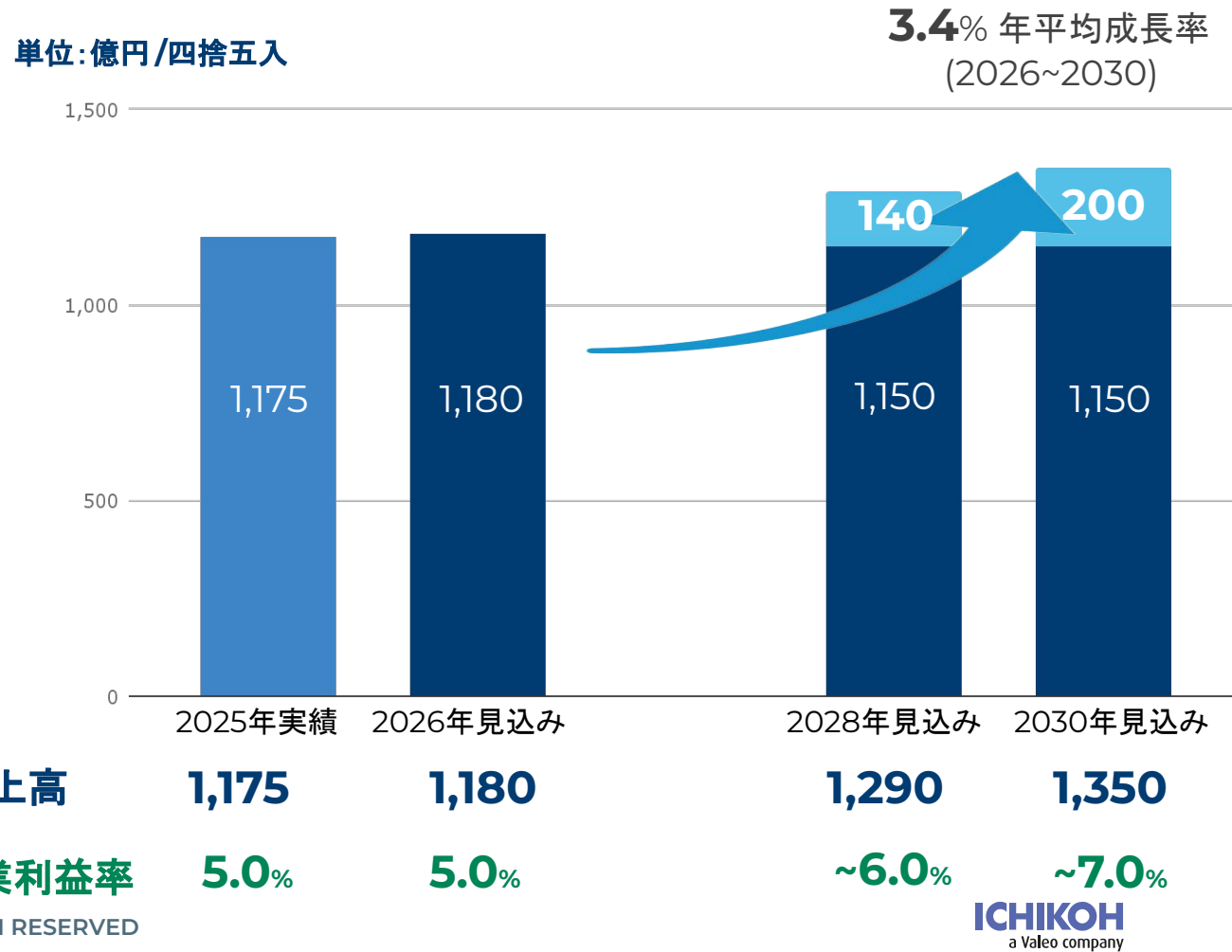
現状の立ち位置...

進捗状況:

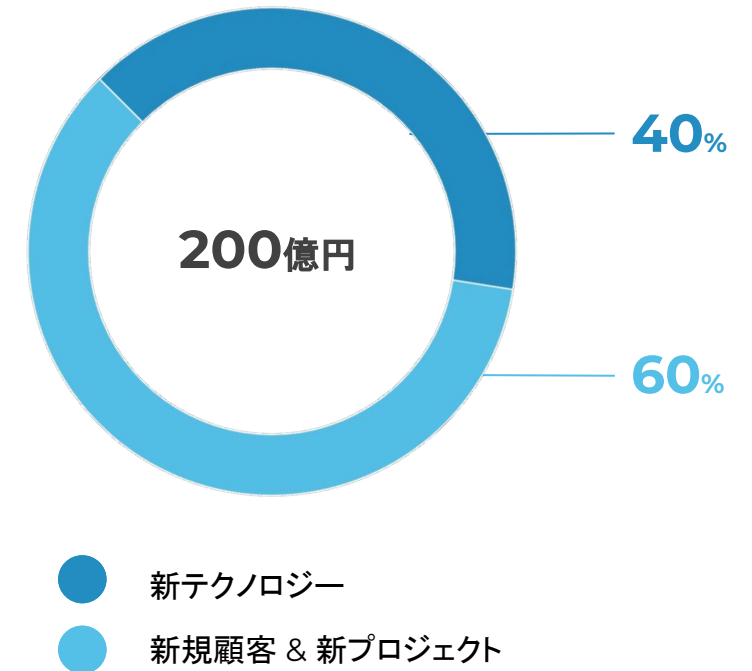
- ➔ **新規顧客 & 新プロジェクト:**
2028年に向けて120億円の契約をFord、Hyundaiと締結
- ➔ **新テクノロジー:**
2028年に向けてHDライティングおよびドライバで50億円確定
- ➔ **新テリトリー #1:**
目標 2026年12月に合併事業活動の開始
- ➔ **新テリトリー #2:**
2027年中に戦略を策定

中期経営計画の概要 - インド事業は含まず

- 地政学リスク、保護主義、コストの高止まり、C-OEMの台頭などが脅威であり外部環境は慎重に判断
- このような不確実な環境の中でも市光工業は強靱な対応力で目標に向かって邁進

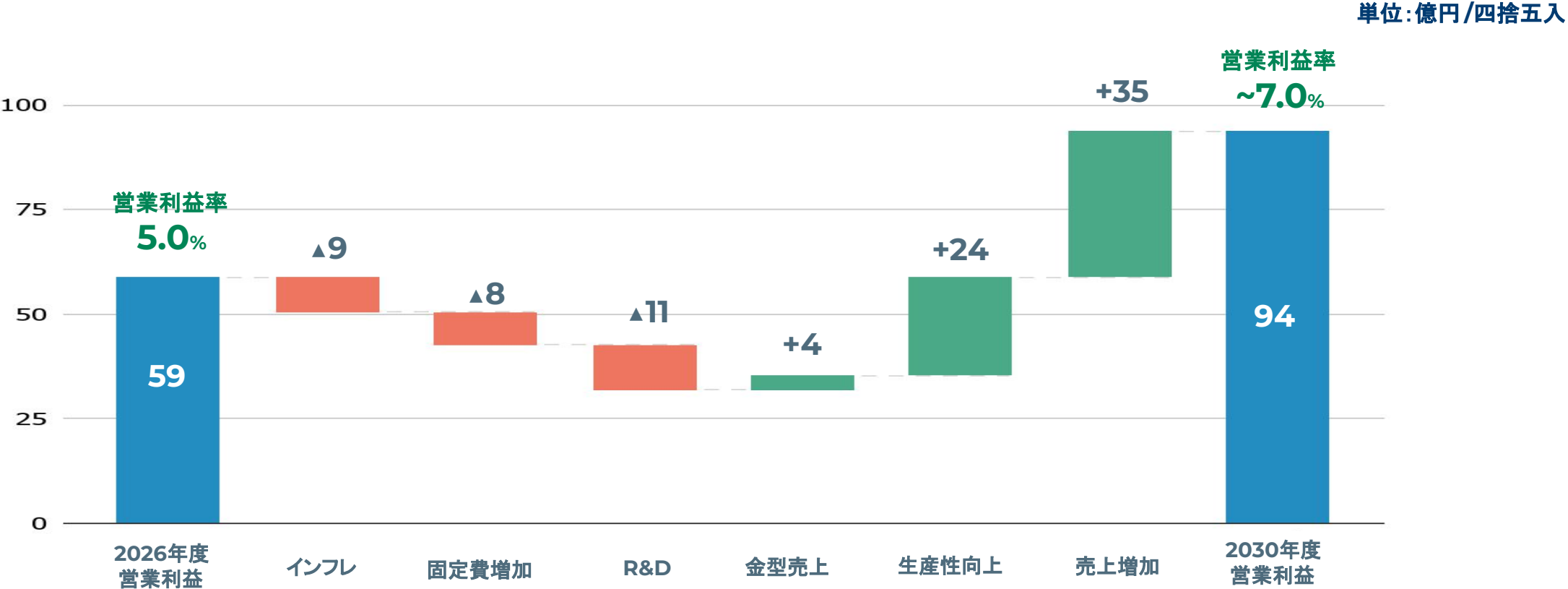


新規拡張分野



中期の見通し: 営業利益のポイント(2026年度 vs 2030年度)

基盤強化フェーズで 金型売上と生産性向上 により、インフレ、顧客への価格低減、成長のための 固定費、R&D費用の増加 を補完し、その後の 成長達成フェーズ で収益を増強



株主と社会に貢献する企業



活況を呈する中国市場
における合併事業からの
さらなる持分法利益貢献

中国における新規受注の
3分の2以上が中国自動車メー
カー向け



継続的な増配政策
による株主還元

2026年目標として、
5年連続の配当増加と
35%の配当性向を設定



ESGにおける
優れた実績



2019年比で水使用量が
89.5%削減



スコープ1およびスコープ2
のCO2排出量を2019年比で
48%削減

企業価値のさらなる向上を実現する、確実な布石

統合報告書の発行に関するお知らせ

➤ 目的:情報の適時性向上と対話の深化

経営情報の鮮度を高めることにより、投資家・アナリストの皆様とのより建設的な対話が可能になることから、発行タイミングの見直しを行う

➤ 発行スケジュールの移行計画

2027年より、発行時期を従来の12月 ⇒ **8月**

この移行に伴い、制作・体制整備期間として2026年の発行をスキップいたします

- 2025年12月:「統合報告書 2025」発行済(2024年度実績ベース)
- **2026年12月予定:発行スキップ**(体制刷新・早期化への準備期間)
- **2027年 8月:「統合報告書 2027版」発行(2026年度実績ベース)**

➤ 投資家の皆さまへのメリット

- **情報鮮度向上**:前年度実績や経営戦略の進捗など、より実態に近いタイミングで把握
- **対話の効率化**:最新の統合報告書をベースに、対話を実施

予測に関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、市光工業株式会社（以下、当社）が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

ご利用に際しては、ご自身の判断で御願ひ致します。資料に記載されている見通しなどに基づいて投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失についても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権は当社に帰属します。いかなる理由によっても当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

ICHIKOH
a Valeo company